

2000年度春季大会ベストポスター賞の受賞者決まる

講演企画委員会によるベストポスター賞の贈呈は今年で4年目となりました。この企画は、それまでの口頭発表中心の大会からポスター発表中心の大会形式に移行する際に、お手本となるポスターを紹介し、発表内容の向上と討論の活性化を促すことで、大会参加者数を増加させることを目標としていました。この目標に従い、ベストポスター賞の評価基準は以下の点におかれました。

- (1) ユニークで印象に残り苦勞のあとが伺えるようなポスターを表彰する。
- (2) 他分野の者にも分かり易いお手本となるようなポスターを表彰する。
- (3) 学術的な内容も評価の対象となるが、学会賞や山本・正野論文賞のように学術水準を重点的に評価するものでない。

選考委員が短時間にすべてのポスターを見て評価するのは実際問題不可能ですので、1次選考は大会参加者全員にお願いしてあります。受付で投票用紙(3日分)が大会参加者に手渡され、無記名投票により大会3日間を通して連日上位2件ずつ計6件のポスターが受賞候補作品としてノミネートされました。(1日目: 預幡哲也他, 對馬洋子他, 2日目: 加藤輝之, 茂木耕作他, 3日目: 木下正博他, 山田広幸他。)

最終選考は全講演企画委員と当該大会及び次期大会実行委員会の代表からなるベストポスター賞選考委員会により行なわれました。選考委員は6件のポスターを再度見直し、無記名投票によりベストポスター賞1件を選出しました。選考の結果、第4回日本気象学会ベストポスター賞には北海道大学大学院理学研究科(現所属: 地球観測フロンティア研究システム)の山田広幸他による作品が選ばれました(写真1)。山田会員には住講演企画委員長から賞状が贈呈され、ノミネートされた6名の会員(写真2)には、記念品として気象学会特製のマグカップが贈呈されました(デザイン: 楠研一会員)。今回はさらに、まとまりの点で評価が高かった預幡会員の作品に対しても、特別賞として賞状が贈呈されました。ベストポスター賞受賞作品は「天気」に掲載され、お手本として全会員に参考にしてもらう一方、講演企画の責任で次期大会(京都大会)においても掲示していただくことになっています。

一般発表をポスター形式に移行して4年目の今期、

ポスター発表は十分に定着し、もはやお手本を示すまでもなく研究紹介の有効な方法として会員の間に浸透しました。ポスター形式は発表者と十分な議論が行なえる反面、小数の発表しか聞けないことから、前もって興味のあるポスターを選んでおかないと、せっかくの重要な発表を見逃してしまうという問題点を耳にします。一部の要望に答えて昨年から5分間の一般口頭発表を認めましたが、こちらの発表件数も適度なところで落ち着いており、発表者が与えられた枠の中で自由に発表形式を選べるようになりました。問題はむしろ分科会のテーマの決定方法にあり、できるだけ大勢の会員が興味をもって聞けるような分科会の設定方法が問われています。学会が公式に支援する研究会を大

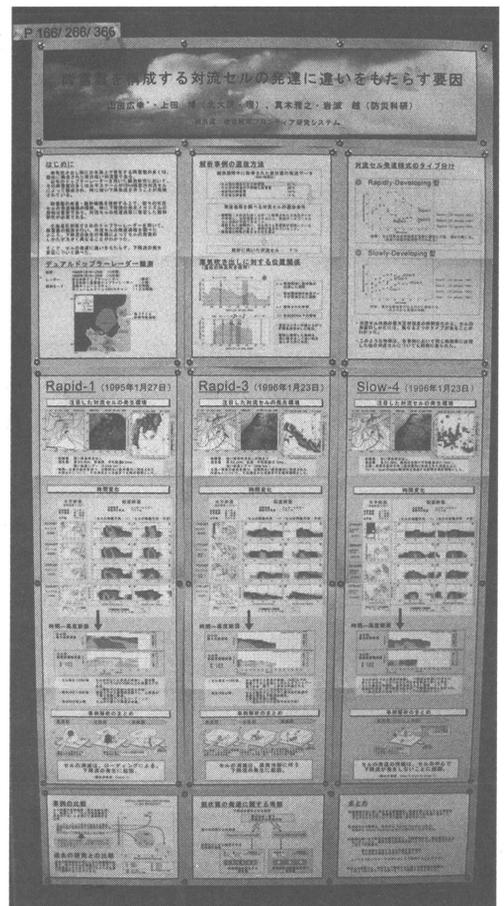


写真1 受賞作品となったポスター

会の分科会に取り込むという意見なども出されており、今後の検討課題として改善を図る必要があります。

最近急速に A0 カラープリンタが普及し、一部ではポスターそのものをプロの業者に依頼した高度な作品が多く目立つようになりました。こうなると、ベストポスター賞の評価基準であるユニークで分かり易く印象に残り、お手本となるようなポスターであるにもかかわらず、苦労のあとが感じられず、お金持ち有利の不公平感が残るようになりました。ベストポスター賞の企画はもはやその目的を十分に成し遂げたとの認識により、講演企画委員会では今回をもってこれを発展的に解消し、次の企画につなげるよう検討を始めたところす。

(講演企画委員会)



写真2 ベストポスター賞の受賞式

会員の広場

ベストポスター賞を受賞して

このたびはベストポスター賞に選んでいただきまして、たいへん光栄に存じます。私の発表は、冬冬季節風時に北海道の石狩湾で2台のレーダーを用いて行った観測の解析結果を示したもので、数か月前に完成した学位論文の内容の一部であります。このポスターは、A4 サイズの台紙にプリンターで印刷したものを張り合わせるというもので、これは私がここ数年間使い続けているスタイルであり、これまでも2回ほどノミネートされたことがありました。内容は違うもののポスターの雰囲気は過去に作成したものとあまり変わらないので、ここにきてベストポスター賞を受賞できたのは少々驚きでした。A0 プリンターを用いたポスターの普及がめざましく、今回ノミネートされた他の方々のポスターは、ほとんどがA0 もしくはB0 プリンターを用いた美しいものばかりでしたが、そんななかで、A4 台紙を張り合わせた旧来型の私のポスターが選ばれたのは、もしかしたら加工の手間が垣間見えて評価基準の中の「苦労の跡が伺えるようなポスターを表彰する」という点が効いたからなのかもしれません。A4 の台紙を組み合わせたポスターは、図を印刷した後の加工の手間がかかってしまうという欠点がありますが、分解すればA4 サイズのクリアブックに取

まってしまうので、持ち運ぶ上でとても便利です。国際学会出席のために長距離を移動する際、出来るだけ荷物を減らしたい場合には良い方法だと思います。

ポスターの製作に当たって、私がいつも目指していることは、少し離れた所から全体を数分間程度眺めるだけで、その内容がおおよそ把握できるようなポスターに仕上げることです。ポスターセッションは、小人数で十分な議論ができるというメリットがありますが、その一方で多くの参加者に自分の研究をアピールしてゆくことは難しいものです。そんなポスターセッションでも、出来るだけ多くの人にアピールするにはどうしたらよいかと考えた時、初めから興味をもって見に来てくれる人以外の人でも、ふと立ち止まってしまうようなぱっと見た時の見栄えの良さと、短時間で研究の流れが理解できるような構成、一言でいえば「取っ付きやすさ」が重要だろうと考えたからです。そのため、重要な図は出来るだけ大きく、そして研究結果の結びの言葉などは簡潔・明瞭にするよう心掛けてきました。しかし今回の発表では、発表に使う図を絞り切れずに図が多くなってしまい、そのため個々の図が小さくなってしまい、遠くからは見づらくなってしまった感は否めません。それでも、論理的な構造を明